

活學

(「活學を講ず」より引用)

国士舘大学 楓教育会だより 第6号

— 令和時代における「楓教育会」の使命 —

令和3年 3月25日(木) 発行

会長 田代和正

「国士舘大学楓教育会」HPリンク先 <http://kokushikan-kaedekyoikukai.com/>

国士舘大学のホームページに「教職支援室」のページが作成されました。

【国士舘大学ホームページ】

(令和3年3月24日付け)

https://www.kokushikan.ac.jp/career/teacher_training/teacher_support/index.html

令和2年度「赴任前実践力養成講座」開催！

—令和3年4月以降に教職に就く4年生23名が参加しました—

教職課程運営委員会主催で、令和2年12月19日(土)13:30より、Zoomによるオンライン形式で、教職支援アドバイザーが4年生・大学院生に助言を行いました。

(1) 赴任を迎えての悩みや不安、ありますか(一部引用)。

- ① 4月入ってからの教育現場でのイメージが湧かない。分からないということが分からないという状態です。本当に、授業が出来るか不安です。
- ② 臨時的任用などをしながら教員採用選考試験の準備ができるのか、不安です。
- ③ 特別支援学級の担任が予定されている。不安です。特別支援教育の勉強をしたい。

(2) 今後、どうしたらよいか悩んでいること、ありますか(一部引用)。

- ① 臨時的任用などをしながら教員採用選考試験を受ける予定です。そのために、1~3月までの教員採用選考試験対策の学習計画を立て、7月に向けて準備したい。相談に乗って欲しい。
- ② 学校ボランティア体験をしたい。受け入れ校があれば、紹介して欲しい。
- ③ 赴任までに、新学習指導要領に基づく学習指導案をしっかりと理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善について、勉強しなければならないことが分かった。

令和3年「第1回面接練習・研修会」開催！

— 令和4年度教員採用選考試験対策がスタート、3年生45名が参加 —

教職課程運営委員会主催で、令和3年2月13日(土)午前10時から、午後1時30分から、2グループに分かれて、Zoomによるオンライン形式(個人面接、集団面接)で、教職支援アドバイザーが助言を行いました。

教職支援室拡大会議(報告) 令和3年2月13日(土) 15:15~

教職支援室拡大会議では、教職課程運営センター運営委員長 文学部教授 山室和也先生より、「昨年からのコロナ禍の影響を受けながらも、教員採用選考試験ではよい結果を出せた。今後は、対面とオンラインのよさを生かして、1、2年生から教職の魅力や喜びを伝え、教職を目指す学生をふやしたい。学生の声をパンフレット(ガイダンス)に掲載したらどうか」と述べられました。

教職支援アドバイザー小島誠先生から、「10月から、新たな教員採用選考試験対策が始まりますよと、学生に声かけを始めたらどうか」と提案され、今後具体的に検討することになりました。

学校訪問シリーズ① 埼玉県狭山市立御狩場小学校訪問（レポート）

—教育実習生 相原翔太（政経学部令和元年度卒業）さんがお世話になりました—
令和3年1月26日（火）、埼玉県狭山市立御狩場（みかりば）小学校（全校児童 216名）でご活躍の鈴木眞澄校長先生（体育学部体育学科 昭和60年度卒、陸上競技部で大活躍、旧姓：名取）を訪問しました。

10：30～ 業間運動の時間だった。御狩場マラソン、ドッジボール、なわとびタイムを楽しむ、元気一杯の子どもたちに出会えた。「わかる力・かかわる力・きたえる力を育む学校」づくりが行われていることが、子どもたちの笑顔から見てきた。先生方のエネルギーが伝わってくる素晴らしい学校だ！と子どもたちの輝く瞳が感じさせてくれました。



10：50～ 社会科授業研究会、緊張する子どもたちに、担任の宮崎先生が“頭ほぐし体操！”と声をかける。教育実習生 相原翔太先生がチャイムと同時に「始めます」。



「この写真、分かる人！気付いたことは？」相原先生の声に「自力解決」タイム2分。「予想」タイム。そして「発表」タイム。ガードミラー7名、グリーンベルト9名が挙手。活気づく授業、思考する力が伸びている。ノートに書く力が伸びている。素晴らしい子どもたちや先生方に出会えました。有難うございました。

鈴木眞澄校長先生が伝えたいこと —あすへいこう—

知・徳・体のバランスのとれた力の育成に向けた、自分なりの学校経営の原点は、辛抱強さと日々のルーティンです。あいさつ・すなお・へんじ・いよくをもってこうどう：あすへいこう！児童も教員も、ともに、目指しています。

（文責：坂本徳雄）

学校訪問シリーズ②

—教育実習生 番場朝香（理工学部）さんを受け入れて頂いた埼玉県立ふじみ野高校を訪問しました—



埼玉県立ふじみ野高校 第3代校長 品川秀人（本学体育学部体育学科卒業第24期生サッカー部）先生に



にお話を伺った。第一声は、「後輩のために、何かできることはないか」という楓教育会創立34年間、脈々とつながる原点の言葉でした。さらに、「国士舘大学の卒業生は、品がありますよね。誇りに思います。その原点は、大学のサッカー部での学び、大澤英雄理事長先生のご指導をいただき、今があります」と述べられています。



品川秀人校長は、埼玉県高等学校体育連盟副会長（西部地区高体連会長）として、埼玉県立ふじみ野高校の魅力あるカリキュラム「スポーツサイエンス科（全国で2校しかない）」を指導されています。今後は、国士舘大学体育学部との高大連携が期待されます。未来のスポーツ・レクリエーションリーダー育成を図るとともに自分の夢実現「いざチャレンジ」の資質・能力の育成を図るなど魅力満載の高等学校づくりを推進されています。まさに、全国・埼玉県のジュニアスポーツのリーダーとして大きな功績を残され、「誠意・勤労・見識・気魄」を体現されている校長先生に出会えました。



それでは、埼玉県立ふじみ野高校を紹介しましょう。平成25年4月に「ふじみ野高校」として開校し今年で8年目を迎えた全日制の男女共学校で、普通科と県内唯一のスポーツサイエンス科が併設されています。3つのチャ



レンジ「自分の可能性にチャレンジ、夢に向かってチャレンジ、感動にチャレンジ」を掲げ、あいさつが校内に響き合い、明るく元気な学校です。まさに、「予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力の育成に向け、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実させる（令和3年1月26日、中教審）」という先駆的に新しい教育課程の実現に挑戦している魅力溢れる高等学校です。（文責：坂本徳雄）



「学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気と感動・夢を発信できる学校」

「後輩への激励の言葉」シリーズ① 「教職支援室を存分に利用し、自信をつけよう」

体育学部こどもスポーツ教育学科4年 福地 鈴

私は4月から宮城県で小学校教諭として勤務させていただきます。試験に合格できた背景には、教職支援室の先生方による手厚いご指導がありました。私は、2次試験に面接と集団討議がありました。今年は新型コロナウイルスの影響により、対面でのご指導を受けることができませんでしたが、オンラインを通して何度もご指導していただきました。面接練習をしていただいたり、面接の際に使用する面接シートの添削をしていただいたりしました。また、私の悩みにも耳を傾けてくださり、的確な助言をしていただきました。孤独と不安で仕方がなかった私の心に寄り添い、励ましていただけたことが何よりも力になりました。

後輩の皆さん、教職支援室の先生方はとても温かく、一人一人に合ったきめ細かな指導をしてくださいます。受験する自治体の詳しい情報を提供してくださったり、自分の良さを最大限に発揮できるよう後押しをしてくださいます。

教員を志す上で、大学の講義では学べない数多くのことを学べる場です。教職支援室を存分に利用することで、自然と自信が生まれます。教員採用選考試験に本気で挑むならば、ぜひ教職支援室を利用し、最後まで自分の力を信じて頑張ってください！

「後輩への激励の言葉」シリーズ② 「自ら行動を起こし、挑戦してよかった」

体育学部体育学科3年 北野 花

昨年、大学の授業がオンラインに決まり、慣れないパソコンに向き合う毎日を過ごしていました。そのような毎日に不安を抱いていたとき、横浜教師塾アイ・カレッジの塾生募集の知らせを見つけました。横浜の教員を目指すため、挑戦することに決めました。入塾試験に向けて、教職支援室の先生に長期にわたってメールやZoomを使って全面的にサポートしていただいたおかげで、合格することができました。アイ・カレッジでは、学習指導案や模擬授業、論作文作成、社会人マナー、横浜の教育など幅広い内容を学んだり実際の学校現場で体育の授業で「笛を吹く」など教師の仕事を経験したりしました。半年の学びを経て今、自ら行動を起こし、アイ・カレッジに入塾してよかったと思うことが2つあります。第一に、同じ目標を持つ仲間ができたことです。他大学の3年生だけでなく、社会人や非常勤で現場に立つ人と出会えたことはとても貴重でした。第二に、自分を見つめ直し、目標を再確認することができたことです。様々な塾生と学習する中で、自分のよさや今後の課題に気づきました。そして、「横浜の教員になりたい」という気持ちが強くなりました。不安を抱きながらも挑戦してよかったと心から思っています。

「後輩への激励の言葉」シリーズ③ 「挑戦」

こどもスポーツ教育学科 中嶋 彩葉

「群馬県の小学校教員になりたい。」

目標・夢・希望を抱いて入学した2017年4月。あれから早4年という月日が流れました。私は、この夢を叶えた今、新たな展望を抱き、新生活の準備をしています。

私が、大学生活の中で最も大切にしてきたこと、それは「挑戦」です。今自分がしたいこと・すべきことは何か、常に問い続け挑みながら、日々を過ごしてきました。振り返ると、挑戦したからこそ得られた多くの気づき、出逢い、経験があり、その全てが自分の成長へと繋がったと実感しています。私の「挑戦」の一つに、教員採用試験があります。この挑戦においても、新たな出逢いがありました。それは、教職支援室の先生方との出逢い

です。私は、面接練習・小論文添削において、手厚いご指導をして頂きました。幾度もズームによる練習を重ね、私の中にあった不安や緊張が大きな自信へと変わっていきました。そして、無事、群馬県の教員採用試験に合格し、今、新たな門出に立っています。

後輩の皆さん。人生において無駄なことなど一つもありません。だからこそ、何事にも一生懸命になってみて下さい。自分の限界を決めずに挑戦してみてください。必ず得られるものがあるでしょう。そして、「今」というかけがえのない時間を大切に。応援しています。

令和3年度第1号（東京都教育委員会より）

「教育管理職になって自分の思いを実現しよう」 ～ あなたがこれからの学校をつくる ～

現在、社会経済状況は加速度的に変化しており、国においても「Society 5.0」や人生100年時代等の到来を見据えた議論が活発に展開されています。こうした状況を踏まえ、教育の分野においても、子供たちに未来の社会を生きるために必要な「生きる力」を育成することを目指して、学習指導要領が改訂されました。改訂の基本方針には、社会に開かれた教育課程、育成を目指す資質・能力の明確化、カリキュラム・マネジメントの推進、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が示され、学校、家庭、地域の関係者が連携・協働して、子供たちの資質・能力を育むことが求められています。

このような時代と社会を生き抜いていける人材を育成していくためには、教員自らが時代の潮流を敏感に察知し、その時代の状況に応じた適切な学びを提供していくことが求められます。そのために、これからの教員には、今までの指導方法を見直し、工夫・改善するとともに、保護者や地域、関係機関等との連携・協働する力が必要になっています。

東京都教育委員会では、これらの学校を取り巻く社会状況の変化に対応できるよう、平成27年2月に「東京都教員人材育成基本方針（一部改正）」を策定し、平成27年10月にはこの基本方針に基づく「OJTガイドライン（第3版）」が発行され計画的に人材育成に取り組んでいます。また、教育公務員特例法等の一部を改正する法律の施行により、教員の職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき校長・副校長及教員としての資質に関する指標の作成が求められ、東京都教育委員会は、教員自らが生涯にわたって、キャリアに応じて求められる資質の向上を目指し、日々、具体的にどの様な努力をなすべきなのか等につき「東京都公立学校の校長・副校長及び教員として資質の向上に関する指標」を策定しました。

以下、東京都教育委員会の資料を参考にまとめました。

文責：国土舘大学楓教育会 副会長 竹中 綺子

.....

国土舘大学楓教育会第2回役員会（報告）

—初めての「LINE ミーティング」で開催する—

令和2年12月19日（土）16:00～、第2回役員会を「LINE によるミーティング」で行いましたので報告します。16名が招待され、当日は8名の方々が参加されました。

第2回役員会では、田代和正会長は、「令和時代における楓教育会の歩みについて、特に、

コロナ感染拡大の影響を受けて、今、何ができるのか、新しく考えていかなければならない」とあいさつをされました。その後、議長は田代和正会長にお願いし、理事長より、(1)第1回役員会(5/14)、書面議決により承認。(2)第18回総会(6/13)書面議決により承認。(3)楓教育会だより第4号(6/13)発行。(4)楓教育会ホームページ(7月開設し10月改訂)。(5)楓教育会だより第5号(10/24)発行。(6)楓教育会臨時「三役会議」(11/16)(6)楓教育会専用LINEの立ち上げ(11/16)の報告が行われ承認されました。次に、議事として、(1)令和3年度年間事業計画(案)が提案され承認されました。その後、「コロナ禍における楓教育会の組織拡充・発展」について、自己紹介を含めて、意見交換・情報交流を行いましたので報告します。

- (1)教職を目指す学生に、是非、私の小学校にボランティアとして入って欲しい。
- (2)東久留米市教育委員会で初任者指導を行っている。特に、学習指導案作成の基礎・基本をしっかり学んで欲しい。「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善が課題になっています。
- (3)楓教育会のホームページやラインをもっと充実させていきましょう。私も参加します。
- (4)第3回役員会は、令和3年2月27日(土)15:00～、リモート(LINEミーティング)で行います。楓教育会のLINEミーティング(下記QRコード参照)に参加してください。
- (5)楓教育会は、創立以来、教員採用選考試験対策や管理職選考試験への支援活動を行っています。

令和2年度 楓教育会第3回役員会(報告)

令和3年2月27日(土)午後3時より、9名の方々に参加を頂きLINEミーティングを行いました。最初に、田代和正会長より、「令和2年度は、コロナ感染拡大の影響を受けながらも、6月13日(土)第18回総会は書面議決で、12月19日第2回役員会を「LINEミーティング」で行いました。令和3年度に向けて、忌憚のないご意見をお聞かせください」とあいさつをされました。議長は、田代和正会長が行い、「卒業生として、後輩のために、何かできることはないか」をテーマに話し合いました。

- (1)10月からの新年度教員採用選考試験対策に変わります。楓教育会も同様に対応しましょう。
- (2)2022(令和4)年度楓教育会創立20周年記念事業について、今後検討しましょう。
- (3)教職を希望する学生のため、首都圏や関東代表によるLINEミーティングを開催し、それぞれの教員採用選考試験対策・臨時任用教員採用情報などを共有していきましょう。
- (4)各都道府県同窓会に参加し、楓教育会の活動について理解を深めてもらいましょう。

今後の課題として、教職を希望する学生や卒業生相互交流の場を設けるとともにより一層広報活動のシステムを構築する必要があると協議されました。(文責:坂本徳雄)
事務局よりお知らせ

- 1 楓教育会のLINEにご参加ください。
田代和正会長のLINE「QRコード」を読み取り、友だち追加をしてください。
(QRコードを読みとってください)

(連絡先) 会長 田代和正
携帯 090-2409-4252



- 2 楓教育会ホームページは <http://kokushikan-kaedekyoikukai.com/> です。
国士舘大学の教職を目指す学生への支援及び卒業生相互の親睦交流・情報共有を図っています。